

新涼

木々朗

八月や雨脚太く地を打てり  
山の色一雨ごとに秋めいて  
秋の夜や月光ソナタ演目に  
秋茄子やきしきしと触れ洗い桶  
秋茄子の塩がきらめく指のさき

九月長月雑詠

細田安治

災害を 忘れるどころか 大水害  
仲天に 名月かかりて ウサギどこ  
彼岸花 毒気ビツクリ 鼠逃げ  
今日からは 冬に向かうと 秋分の日  
本読むか 秋の夜長に なんの本  
秋分に 入道押し のけ 鱗雲